

第68回定時総会の報告 第67回現代歌人協会賞授賞式報告

浦河奈々

二〇二三年六月二十九日(木)
午後六時より東京神田の学士会館
において、一般社団法人現代歌人
協会の第68回定時総会、第67回現
代歌人協会賞の授賞式が行われ
た。

授賞式に先だって二〇二三年度

現代歌人 協会会報 176

の定時総会が春日いづみの司会に
よって開かれた。議決権を有する
協会の会員総数八百八十四名のう
ち総会出席者五十三名、委任状提
出四百六十九名で定款の定める定
足数に達していることが確認さ
れ、総会の成立が報告された。

最初に栗木京子理事長よりコロ
ナが収まった今年は対面で会が開
催できることがうれしいと挨拶が
あった。さらに昨年末、理事会内
に(ペビジョン策定委員会)が発足
し、開かれた歌人協会にするため
の新たな試みとして、五年から十

年後に目標設定を置きながら、現
在開催している全国短歌大会や公
開講座の他にも、デジタルアーカ
イブの充実、地方でのイベントの
開催、歌集の翻訳と世界への短歌
の発信、などが検討されているこ
とが報告された。

その後議事に移り、議長は定款
第十六条に従い、栗木理事長が務
めた。まず昨年の多くの会もまた
対面とオンラインを併用して開催
されたこと、全国短歌大会と公開
講座「巨匠の添削」が開催され、
短歌大会には千九百十七首の応募
があったことが報告された。次い
で同収支報告を加藤英彦が、同監
査報告を桑原正紀が行い、それぞ
れ承認された。

次に栗木理事長から本年度の事
業計画案が発表され、すでに開催
中の公開講座の好評と、対面で行
われる今年の全国短歌大会と三月
の奈良の出張イベント、さらにネ
ットプリント企画への期待も語ら
れた。

その後、加藤英彦より本年度予
算案の説明があり、承認された。
続いて栗木理事長より新任六名の
理事の紹介があり、留任の理事と

ともに承認された。最後に副理事
長の坂井修一より二〇二三年の新
会員四十三名が紹介され、承認さ
れた。

議事終了後、協会賞選考委員長
の東直子より第67回現代歌人協会
賞の選考経過報告がなされた。

(協会賞決定の詳細は二〇二三
年六月発行の会報一七五号にて報
告)

受賞歌集は鈴木加成太の『うす
がみの銀河』と田村穂隆の『湖と
ファルセット』である。

続いて、同じ会場で第67回現代
歌人協会賞の授賞式に移った。授
賞式出席者は七十名である。

初めに栗木理事長が六十五年前
の受賞歌集である塚本邦雄の『日
本人靈歌』の凄さに触れ、今年の
受賞歌集も何十年も後に読み返し
た時、新たな感動を呼ぶだろうと
語った。さらに東選考委員長より
二冊受賞となったそれぞれの作者
の訴求力の高さが述べられ、鈴木



加成大歌集のなげない日常から
非日常へふっと入り込むイマジネ
ーションの豊かさと言語感覚のす
ばらしさが、そして田村穂隆歌集
の内的な衝動のつよさとテーマ及
び表現の独自性が述べられた。続
いて賞状・副賞の授与。そして祝
辞となった。まず鈴木歌集につい
て選考委員の富田睦子がみずみず
しい詩情の豊かさや家族への印象
的な視線について述べた。一方、
米川千嘉子は「これが僕の世界」
という歌の勢いが頼もしく、彼の
言葉を読むと言葉を信頼する豊か
な気持ちになれると語った。

次に田村歌集について選考委員
の外塚喬は作者の身体へのこだわ
りを指摘しつつ、歌は背景がある
からおもしろいのではない、作品
がよければ読者を捉まえて離さな
くとなると、背景抜きの田村作品の
魅力を述べた。また田村の同人誌
仲間の橋本牧人は作者の内面の抑
圧について述べた。続いて祝電披
露、花束贈呈が行われ、受賞者二
人から挨拶をいただいた。

鈴木は「文芸とは本来弱く苦し
んでいる人々に寄り添うべき孤独
な器」と、また田村は「身体があ
ることのしんどさと短歌によって
和解決したい」と、それぞれの作風
を思わせる真摯な言葉で思いを述
べた。コロナが収まりつつある今
年も祝賀懇親会は行われなかった
が、受賞者二人に温かい拍手が贈
られ散会となった。